

痴呆性高齢者の グループホームとトリイ開所



テープカットで「グループホームとトリイ」の完成を祝う（左から深渡宏村長、熊谷聡村議会議長、野崎普代福祉会理事長、佐藤勲村社会福祉協議会長、工事関係者ら）

村社会福祉法人普代福祉会（野崎幸太郎理事長）で、鳥居地区に建設を進めていた痴呆性高齢者グループホームとトリイがこのほど完成。開所式は十二月一日、同ホームを会場に村、普代福祉会を含む工事関係者ら約三十人が出席して行われました。入所条件や利用料金については「広報ふだい六月号」でお知らせしていますが、今月号では、開所式を中心にその後のグループホームとトリイについてお知らせします。

痴呆性高齢者グループホームとトリイの開所式と落成式は十二月一日、同ホームとトリイを会場に村からは深渡宏村長ほか四人、村議会が熊谷聡議長ら五人、設計監理者と工事施工者を含む約三十人が出席して行われました。

深渡村長が「特別養護老人

ホームのほかに介護支援センターなど総合的な福祉施設ができました。高齢化社会を迎え、これらの施設を大いに活用し高齢者の健康に役立てていただきたい」と、あいさつ。続いて工事の概要説明が行われ、テープカットで完成を祝いました。

24時間体制でしっかり支援

痴呆性高齢者グループホームとトリイは、福祉会が運営する特別養護老人ホームうねとり荘、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、生活支援ハウスやまびこに隣接して整備されました。鉄筋コンクリート平屋建てで、床面積は約四五四平方メートル。定員は九人ですべて個室（洋室が五室、和室は四室）八畳の広さです。

ほかに交流ホール、談話コーナー、共同浴場、洗濯室、家事室などが設けられ、玄関にはスロープを設置しました。施設全体が車いす対応の構造で、トイレのセンサーは人の動きをキャッチし、ふたが自動的に開閉するなど利用者に優しい施設となっています。総工費は一億五千二百八十

万七千円で、国・県補助金は三千百三十万円、村の補助、百万円、普代福祉会が一億二千五百七十七千円です。各部屋には洗面所、冷暖房施設が完備され、洋室にはベッドが備え付けられています。部屋は利用する方が日常使っている家具の持ち込みができ、好みに合わせて自由に部屋を使っていたく仕組みになっています。

日中は専門員の介護職員が九人常勤し、食事の準備や洗濯、部屋の掃除など利用者の方々と一緒になって生活を支援します。

緊急時に備えて各部屋にはナースコールを付け、夜間は介護職員が一人常勤し対応するなど、二十四時間体制で利用者の生活を支えます。

◆入所手続きなどの相談は

入所についての手続き方法などの相談は、グループホームとトリイに直接おいでください。支援相談員が親身になって相談に応じます。また介護支援専門員（ケアマネージャー）を通して相談することもできます。

◆問い合わせ先

在宅介護支援センター、
（0194-3795）生活
相談員までお気軽にどうぞ。